



## 本体コンクリート 試験練り 始まる！

骨材（コンクリートの材料）運搬 12月中旬頃から搬入開始！



ダムサイト下流側から撮影



ダムサイト上流側から撮影

※河川を上流から下流に向かって眺めたとき、右側を右岸、左側を左岸と呼ぶ（川の流れる方向 → ）

和食ダム本体工事では、左岸側の法面保護工事、ダム堤体河床部の掘削工事、そしてコンクリート打設機械「タワークレーン」の基礎工事が進められています。タワークレーンを使用することにより、高さ51m（ビル15～20階の高さ）もある和食ダムの最上端まで打設することが可能となります。また、コンクリートを製造するための仮設プラントもほぼ完了し、年明け以降にダム本体のコンクリート打設がスタートする予定となっています。

これに伴い、コンクリートの材料となる骨材等を搬入するため、**12月中旬頃から大型ダンプトラックが、芸西村内を通行し始めます。** 交通ルールの遵守、安全対策には十分配慮していきますので、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

## 琴ヶ浜をみんなでキレイに！

ダム本体工事JV職員が琴ヶ浜清掃ボランティアに参加



流木をかき集める本体工事JV職員

9月21日、芸西村の琴ヶ浜では、台風等で流れついた流木を撤去する清掃ボランティア活動が行われました。

このボランティア活動には和食ダム本体工事JV職員も参加し、散らばった流木をかき集め、焼却していく作業を行いました。

日本白浜青松百選にも選ばれている琴ヶ浜松原。芸西村を通る際は、ぜひ立ち寄って見てください！



## 和食川について知ろう！

芸西小学校4年生を対象に環境学習会を開催



和食川やダムの役割を勉強する児童



和食川の生物調査

9月29日、ダムの役割や地域の水をめぐる歴史・文化を学び、これからの和食川について考えてもらおうと、芸西小学校の4年生を対象に、環境学習会を開催しました。

今回の学習会では、和食川下流のかっぱ公園に移動し、網やバケツを使った生き物探しやパックテストを用いた水質調査などを行いました。

「生き物や和食川のためにもゴミを捨てないようにしたい」など、きれいな和食川を守り続けていきたいといった感想が多く寄せられました。



## 芸西村にやさしい光を灯そう！

竹あかり製作教室の開催

9月23日、「村に優しい光をともしよう」と、竹に小さな穴を開けてデザインを描き、中に入ろうそくを灯す「竹あかり」の製作教室が開催されました。竹あかりを専門とする熊本市のグループ「CHIKAKEN」の方を講師に招き、イベントに参加した約40人が竹あかりの製作を行いました。

「早くろうそくを灯してみたい！」参加者からは完成した竹あかりの点灯を楽しみに待ち望んでいるようでした。製作した竹あかりは、今後、芸西村のイベントなどで活用していくとのことです。



## 和食ダムを彩る美しい花

芸西村の特産「ダリア」の収穫、始まる



「芸西産ダリアの特徴は、花1本のボリューム。他の地域で栽培されているものに比べて大きいんです！」そう話すのは、和食ダムに近いビニールハウスで、芸西村の特産「ダリア」を栽培されている岡村学さん。

ダリアはブライダル業界でよく利用されており、夏頃に定植し、11月～12月頃に収穫を迎えます。岡村さんのダリアは、関東や関西を中心に全国各地へ出荷しているようです。

そんな岡村さんから一言！“花屋さんに頼む時は、ぜひボリュームある芸西産ダリアを！”

## 現場見学会情報

10月、11月の現場見学会



10月21日に芸西中学校1年生、10月22日に香川県椋川ダム関係者、11月6日に岩手県築川ダム建設事務所、11月14日に中国四国地区補助ダム会議の方々が訪れ、和食ダム建設現場を見学されました。

見学会では、県の担当者及び本体工事JV職員から、和食ダムの事業概要、ダム本体の施工状況などを説明させていただきました。

全国でも数少ないダムの建設現場ですので、ぜひこのような機会に、ダムに関わる知識を深めてもらいたいと思います。

## 探してみよう、芸西の魅力！

芸西村の夢や思いを語る、井戸端会議を開催



10月31日、芸西村で活躍されている方々を募り、芸西村に対する夢や思いを語っていただく「芸西村づくり 井戸端会議」が開催されました。アドバイザーとして愛媛大学の笠松浩樹教授をお迎えし、出席者の方々には芸西村の良さや資源について語っていただきました。

今後もこのようなワークショップに参加し、芸西村を盛り上げるためのヒントをみつけていきたいと思っています。